



# 月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)  
電話 (鉄電) 千葉2935・2939番  
(公) 043(222)7207番  
FAX 043(224)7197番  
2000.9.14 No. 5195

## 動労千葉の新たな大躍進を!

# 第29回定期大会の大成功をかちとろう!

## 10月1日(10時)~2日/DC会館 大会議室

### 二一世紀へ! 新たな世 代の動労千葉の躍進へ!

二一世紀を目前にした本定期大会の位置は決定的である。大会の大成功を通して、すでに開始している「新たな世代の動労千葉の創造」を大きく前進させなければならぬ。

闘いの課題は、一〇四七名の解雇撤回闘争をはじめ、「シニア制度」や新たな合理化攻撃との対決、JR総連解体・組織拡大など重要な課題が山積している。しかし、結成二〇周年を飛躍台として、新たな闘いを開始したわれわれは、自信と確信をもって更に前へ突き進むであろう。第二九回定期大会を圧倒的にかちとり、動労千葉の二一世紀をとものにきりひらこう。

**原点に立ち返り、国鉄闘争勝利をもちとろう!**

八月二六日の国労臨時大会は、闘争団、家族を先頭として国労組合員、支援の仲間たち三〇〇〇名が周囲をうめつくすなかで「四党合意」の大会決定を再び粉碎するという歴史的快挙をなした。

闘争団を先頭とした「七・一」の渾身の決起に対する「暴力・暴徒」キャンペーンとそれを口実とする闘争団への「糧道を断つ」攻撃、機動隊の導入やチャレンジグループ・革同による「自警団」の動員等の攻撃を敢然とはねかえし、「四党合意」を完全に打ち砕き、国労の闘う路線をうちたてる新たな展望が切り開かれたのである。

わが動労千葉は、こうした情勢のなかでその中心となつて共に奮闘してきた。われわれは、二〇四七名闘争の当該として「勝利の道」を指し示し、国労の仲間たちの決起を呼びかけてきた。こうしたたたかいが闘争団と国労本体、そして多くの国鉄闘争支援勢力との大合流を果たす情勢を切り開き、労働運動全体の階級的再生への礎(いしずえ)を築いてきた。

しかし、国労本部執行部は、「四党合意」を押し通そうとする姿勢を改めず、組合規約にもない一票投票などというやり方であくまでものりきりを図ろうとしている。情勢は待ったなしの正念場を迎えている。だからこそ、闘い

の原点に立ち返り、一〇四七名を守りきり、敵の最大の弱点であるJR総連革マルとJRの結託体制を徹底的に突き、攻めたることこそが勝利の力である。国労からも、運輸省・自民党

・JRを不当労働行為の当事者とした新たな地労委闘争が開始されている。われわれは、大会での真摯な討論を通し、より一層、自信と確信をもって二一世紀初頭での国鉄闘争勝利のために突き進もう。

**「シニア制度」反対、検修・構内外注化を始めとする新たな合理化攻撃阻止の態勢を!**

JR東日本の「シニア制度」は東労組を先兵とする新たな組織破壊攻撃であるばかりか今後全体の労働条件や業務のあり方など重大な問題をはらんだ「制度」であり、全組合員による総力をあげた課題である。闘いはすでに始まっている。本部は八月三〇日労働大臣に「請願書」を提出し、九月五日に

は来年度に六〇歳定年を迎える浅野さん、三平さん、羽鳥さん三名から労働大臣への「申告書」が提出され、今後労働委員会闘争など総力を傾けた闘いに突入する。

そもそもこの「制度」はあまりにもひどいものである。賃金、通勤問題、勤務の実態などあらゆる面で高齢者が事実上応募できない代物であり、明白な高齢者切り捨てのものである。しかも当局は、この制度とワンセットに検修・構内関係の外注化攻撃に出ようとしている。

実際に東労組は、これを「成果」と言いなし、それを組織破壊の道具に使っているのだ。われわれは、このような最悪の制度と新たな合理化攻撃を断じて認め、出発点に、「シニア制度反対」、合理化粉碎の闘う姿勢をがっちり築こう。

これらの闘いを当面の柱として、JR総連解体、組織強化、拡大の闘いを強力に推し進め、強制配転粉碎、土職登用、反合・運転保安確立の闘いに全力で立ちうてはならないか。

森自公政権による新ガイドライン改憲攻撃、国家的大リストラ攻撃と対決し、闘う労働組合の全国ネットワークの本格的発展をかちとろう。

第二九回定期大会は、新たな会館(DC会館)を団結の砦にして、二一世紀に向けた出発点である。大会の大成功を共にかちとろう。